

植調協会だより

◎ 会議開催日程のお知らせ

- ・平成16年度冬作関係（麦類・いぐさ・水稻刈
跡）除草剤・生育調節剤試験成績中央検討会

日時：平成17年9月13日（火）10：00～17：00

場所：鈴乃屋ホール

〒110-8537

東京都台東区上野1-20-11(鈴乃屋本店7階)

TEL 03-3833-1001

◎ 人事異動

平成17年7月31日付

退職 広島第2試験地主任 前田 博文

編集後記

8月1日、種子島から17年度産の新米が送られてきた。米どころ新潟をはじめとして東北地方の稲は出穂期。日本列島は如何に南北に長いかを実感しながら新米をいただく。

地球温暖化は益々進行したのか今年の夏も猛暑続き、暑い、暑い、しかしこの暑さは日本の稲作に豊作をもたらしてくれる要因と思えば猛暑もまた楽しと納得している。

夏は子供の楽しい夏休み。しかしこの夏休みには自由研究という悩みのたねもある。あれこれと考えて判らないことがあると手取り早くテレビ局などに問合わせてくるようだ。そんなあおりか夏になると雑草や植物に関する質問が当方に多くなってくる。「判らない草を採集したが名前を教えて欲しい」と簡単なことから「四つ葉のクローバを見つけると幸運が訪れるというのが本当か」「雑草ってどんな草」「草の中を歩くと衣服に雑草の種が着くのは何故」「都会の道端や並木の下にどうして雑草が生えてくるの？」と難問、奇問が寄せられ本業そっちのけで対応に汗ダク。生業が植物関係という編集子にとってはあまり適当な返事もできない。四つ葉のクローバの件では、クローバの葉は普通は3枚でこの3枚の葉の一つ一つは希望、信仰、愛を表し4番目の葉は幸運を表すといわれている。し

たがって四つ葉のクローバを探すと幸運が訪れるといわれている。しかし、これが五つ葉（五つ葉もある）となると5番目の葉は悪魔を表すといわれ嫌われている。と蘊蓄のあるところを披露してやった。しかし、「道端などにどうして雑草がはえるの？」という質問にはどう答えてよいか迷ってしまった。簡単にはどんな場所でも土の中には雑草のたねがたくさんあってそれがはえてくると答えたが、ではその雑草の種類は、雑草のたねってどんな形、どの位の大きさ、どこからきたのと次から次と質問の連続、いささかくたびれた。でも、普通なら見向きもされない都会の雑草に興味をもちそれを調べようとする子供がいる事を知って嬉しくなった。

この原稿を書いている最中にこの6月「特定外来生物規制法」の対象雑草となったナガエツルノゲイトウの大群落が尼崎市の庄内川にある。また、伊丹市内の水田では水田周囲を囲むように高密度に生育していて畦から水田内に侵入して繁殖しているというメールが届いた。ナガエツルノゲイトウは茎の切片からでも芽を出し繁殖するので水田に入ったら難防除雑草となり手におえなくなる。思わず背筋がゾーッと寒くなった。夏の怪談話とシャレにもならない現実である。㊟

財団法人 日本植物調節剤研究協会

東京都台東区台東1丁目26番6号

電話 (03)3832-4188 (代)

FAX (03)3833-1807

平成17年8月発行 定価525円(本体500円+消費税25円)

植調第39巻第5号

(送料 270円)

編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 小林 仁

発行人 植調編集印刷事務所 広田 伸七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会

発行所 植調編集印刷事務所

電話 (03)3833-1821 (代)

FAX (03)3833-1665

E-mail: hon@zennokyo.co.jp

印刷所 新成印刷(株)